



同友しずおか

題字：遠藤 在氏 榛原支部



私の逸品
 車の安心・安全を届ける新拠点
(株)レグレース
 (浜松支部)
 詳細はWEBで!



特集

静岡財務事務所および静岡労働局との意見交換会

中小企業の現状・要望を伝える

会員訪問記

坪井 秀樹氏 坪井豊店・静岡支部
藤井 陽介氏 (有)藤井建築・中遠支部

その他 主な内容

障害者問題全国交流会、同友会大学、静岡大学連携講座、支部だより、若手社員フォローアップ研修、青年部通信、新会員紹介、友達の輪、地域交流委員会（静岡支部）

平成29年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営を実践する同友会型企业を増やします。
- ② 中小企業振興基本条例運動を推進し、政策実現が行える組織づくり、地域づくりをめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

中小企業の現状・要望を伝える



児玉 光載静岡財務事務所長

昨年の開催に続き、本年10月16日(月)同友会会議室にて、静岡財務事務所および静岡労働局との意見交換会を開催しました。静岡財務事務所・児玉光載所長、静岡労働局・高森洋志局長をはじめ8名の方と、同友会から

は遠藤一秀会長、県正副代表理事、県事務局から9名、総勢17名が出席しました。

松葉秀介副代表理事の司会進行の下、遠藤会長の開会挨拶に続き、児玉所長から「地域活性を目指すならば、地域を知るために現場の経営者と接点を持ち、問題意識を共有することが必須。人手不足が大きな経営課題であるなか、現場目線の意見交換を通じて関係強化を図ると共に、中小企業

のニーズに即した勉強会を行いたい」とご挨拶がありました。続いて川上正人財務課長から静岡県内経済情勢、青木啓祐理財課長から金融行政についてそれぞれ報告があった後、高森労働局長から、人口減少による人手不足という未曾有の状況下での人材確保の現状と対策について説明がありました。

同友会からは、河合浩史代表理事より同友会の理念、活動目的、組織について説明。その後、三者による意見交換が行われました。同友会からは、高齢者の継続雇用に関する補助や経営者保証に関する要望、大手企業誘致による雇用創出が中小企業の人手不足に影響を与えているという状況などを伝えました。財務事務所からは、地域金融機関がより一層、中小企業の経営理念や方針を理解する必要があること。また各支部と金融機関とで連携を深めてほしいこと、労働局からは有効求人倍率が高まる昨今において、企業の人材確保への施作の紹介などがありました。

ご参加頂いた静岡財務事務所および静岡労働局の皆様 (敬称略)

静岡財務事務所 所長	児玉 光載
静岡財務事務所 総務課長	松下 豊
静岡財務事務所 財務課長	川上 正人
静岡財務事務所 理財課長	青木 啓祐
静岡財務事務所 管財課長	榊原 章人
静岡財務事務所 総務課企画係長	勝治 裕視
静岡労働局 局長	高森 洋志
静岡労働局 雇用環境改善・均等推進監理官	竹山 直司



参加者感想

10月16日、東海財務局静岡財務事務所の児玉事務所長と各課長の皆さんと、高森局長と静岡労働局の方々との意見交換会を実施しました。最初に両事務所から県内の法人企業景気予測の調査の結果や人手不足感が強いとの説明と、ハローワークの特別相談窓口の開設等の対策の話がありました。同友会からは遠藤会長や代表理事、副代表理事から中小企業の経営実態にあった施策への質問や要望を出し、質疑応答が活発になされました。また同友会はいよい経営環境をつくるために中小企業振興基本条例を各自治体と作成運営で協力している

こと、金融庁の監督局の日下智晴室長を同友会の中日本ブロック代表者会議にお招きし地域金融機関に中小企業の事業性評価の実施指導をしていること等を勉強し金融機関と折衝していることをお伝えしました。12月18日に同友会主催、財務事務所後援で、日下室長をお呼びして同友会会員と地銀、信金の支店長とで学習会が実施されます。会員の皆様にはぜひご参加いただき、自社の信用保証協会なしのプロパー融資を銀行からしてもらえよう勉強していきましょう。

高木 基氏 (バリュー・トーカイ(株)・県副代表理事)

第19回障害者問題全国交流会 in 広島

誰もが安心して暮らせ、夢の持てる地域づくりを

10月19日(木)～20日(金) 福山ニューキャッスルホテル 参加527名



広浜泰久中同協会長

「誰もが安心して暮らせ、夢の持てる地域づくりを」をテーマに、障害者問題全国交流会が広島（福山）で開催されました。誰もが共に育ちあい、その能力を發揮できる質の高い職場環境を整えることは「人を生かす経営の実践」

のひとつです。そのためにも地域に暮らす障がい者や就労困難者を取り巻く問題を研究し私達経営者は何が出来るのか、何をすべきか考える必要があります。障がい者雇用なんて絶対無理と決めつけていた経営者が同友会活動を通じて「知る」そして「職場実習」を受け入れる。社員全員でどうしたら働きやすくなるのか考え職場環境を改善していくことで心がひとつになります。職場改善活動は在庫品の見易さ、指示の伝わり易さにもつながり利益向上にも大きな効果が出る事例報告もあ

りました。採用活動が厳しい今、どんな職場なのか、どんな仲間と仕事をするのか、学生は職場実習やインターンシップなどを通じて選んできます。障がいの有る無しに関わらず、社員一人ひとりに目を向けることのできる中小企業の魅力を最大限發揮して、地域と共に歩む良い会社にしていきたいと思います。

河合 浩史氏（板橋工機株式会社・代表理事）



第4分科会

地域の社会的課題に向き合う

～社会的養護のもとに育つ子どもたちの「力」を生かせる企業経営～

社会的養護とは？

～京都で始まった児童養護施設と同友会の関わり～

パネルディスカッション形式で「社会的養護」をテーマに学びを深めました。「社会的養護」とは、様々な理由により親と生活ができない子ども達を施設などに養護することを言います。各パネラーより、関わり始めたきっかけや取り組みなどが報告されました。パネラーの中にご自身が養護施設で育った方もいて、その方の「生きる」ために働いていたという言葉が印象的でした。また、養護施設を卒業した子ども達に仕事を紹介するという事業をしている方からは「最初の一歩が大切、同友会のネットワークを利用すれば若者を育てることができる」といったお話もありました。社長の思いで何とでもなる、もったいない人材を見過

ごしていないか？まずは知ることが大切という話で締めくくられました。

その後は2時間半近いグループ討論でした。私の入ったグループは京都、愛知、福岡、広島からの参加者でした。参加者の中には社会的養護という言葉を知らなかった方もいて、京都同友会のグループ長が京都の取り組みを丁寧に話してくれました。このバズセッションでは養護施設卒業者の居場所（生活拠点となるシェアハウスなど、共同生活できる場所）が必要ではないか？といった意見が出ました。そして知ることから始まるのではないかという意見でまとまりました。私はそこから一歩踏み込んで「知ってもらうには何ができるか？」を考えていかななくては行けないと学びました。

池原 智彦氏（有池原商会・志太支部）

第15期 同友会大学

現代の経営者に求められる様々な素質を相互に高め合うことを目的に、経営者の人間力、幅広い知識や見識の醸成、物事の本質を捉える講座です。残り5講、各講座のスポット参加も可能ですので、ぜひご参加ください！

第一講

「持続可能な地域」の実現を目指して —静岡県的发展経緯と今後を手掛かりに—

10月14日(土) 静岡同友会 事務局
講師：太田 隆之氏 (静岡大学学術院准教授)



太田 隆之先生

元総務大臣の増田寛也氏による2014年の日本創生会議「増田レポート」による提起をもとに“今の地方が抱える問題”“地方自治体の政策”“地域の取組み”“地域の持続可能性”について、太田隆之・静岡大学准教授にご講義いただきました。

その後、各自治体主導で計画と予算づけをする従来型政策には限界がきている現状を踏まえ、静岡に育ち、静岡で事業を営む我々中小企業家はどう考え、どう行動をとっていくべきかグループ討

論で活発に意見を交わしました。

全国屈指の住みやすさや可能性、魅力を秘めた静岡県にあっても、少子化問題、事業継承、人材確保、災害リスクなど課題は顕著です。子どもや若者を重視した魅力ある文化、社会環境、雇用を伴う経済を今一度見直し、地域社会の主体者たる我々中小企業家こそが「環境」「経済」「社会」すべての「持続可能な発展」の実現に向けて大いに関わり続けることが求められているのでしょうか。条例制定も踏まえて民間の我々がもっと「地域づくり」に関わり続けたいと思います。

柴 健氏 (㈲シバ・フードサービス・静岡支部)

若手社員フォローアップ研修

おめでとう！ やっと半年？ もう半年？

10月3日(火) 静岡総合研修所もくせい会館 参加23名



会員企業13社より18名の若手社員が参加し、フォローアップ研修が開催されました。

午前の部では、杉山静江氏 (㈲声) よりビジネスマナー研修を、午後の部では西條浩氏 (エスティーアイ・コーポレーション) より仕事に対する心構えを伝えて頂きました。研修では3グループに分かれ、講義を基に討論を行い、半年間の経験を共有しました。最後に参加者全員が今後に向けた決意表明を行い、新たな気持ちのもと一歩を踏み出す機会となりました。



青山 達弘氏

4月5日の合同入社式、それに続く一泊での若手社員研修から6ヶ月。全員ではありませんでしたが、若手社員が参集しての研修会でした。冒頭の挨拶で、思わず口をついて出たのが、おめでとう！という言葉で

した。

我々にとっては、忙しい日々の中の、ほんの6ヶ月、という時間の流れですが、彼らの立場から眺めると、この期間は、聞くもの見るもの新し

いことばかりだったでしょう。学校で教えられて来たことを一つ一つ確認することであり、全く教えが役立たなかったこともあったでしょう。そんなことを考える中で口をついた、ほとんど祈りのような言葉でした。

「人を生かす経営」を目指す同友会、その中核を担う共育委員会。彼らの学び合う姿、これからも社会で前向きに頑張ろうとする姿から、更に精進せねば！という熱いものが身内から湧きあがってまいりました。

青山 達弘氏 (㈱青山建材工業・県共育委員長)

支部だより

伊東例会

夢を育てる

10月18日(水) 東伊豆商工会 参加8名



稲本 雅子氏

全県フォーラム開催を前に記念講演の講師を務める稲本雅子氏(株)ハリスの湯 代表取締役)が、経営理念、そして社員との接し方について記念講演のプレ報告をしました。その中で特に驚かされたのが、稲本氏の「社員の夢を応援する」という基本姿勢です。社員が幸せならその家族も幸せだし、経営者である自分も幸せだ、と言う稲本氏。そして、幸せを感じている社員が仕事に良い結果をもたらす、とのことでした。同社は、離職率が高い宿泊業にあって、ここ数年の離職率は0%。経営者の人柄や接し方、経営理念によってそれが可能だということに気づかされました。そして、何より経営者が社員を好きになり、その人の夢を応援したいと思い実践することで、社員と一緒に育ち合えるのだと、その実践報告に学びました。

今や会社が人材を選ぶ時代ではなく、会社が選ばれる時代です。その中で我が社もより優秀な人材に選ばれるよう、創意工夫をし経営や人材育成に取り組みたいと思います。

鈴木 将大氏 (㈱東亜電気工業・伊東支部)

同友会まつり in ごてんば

同友会まつりを通して地域への恩返し

10月7日(土) 高根ふれあい広場・中郷館

今回で3回目の開催となる御殿場支部主催の同友会まつりが開催されました。前日からの悪天候が心配されましたが、当日は開始と同時に陽ざしが差し込み、開催中は好天に恵まれました。



まつりは会員企業が皆で協力し、出店や様々な企画のもと、ご来場の皆様をお迎えしました。飲食ブースでは地元の人気店がこのまつり用のメニューを用意したのですが、昼時になると各店に行列ができる程の人気ぶり。来場者は様々な店舗の味を楽しんでいました。また職業体験ブースでも、会員企業が地域の子供達向けに様々な体験コーナーを設け、一生懸命取り組む子供達をサポートしながら楽しんでもらいました。働くクルマブースでは、日頃見ることのない大きな重機(ハーベスター)の実演の迫りに驚いていました。

地域の皆様に日頃の感謝を伝える目的で開催した同友会まつり。地域密着で地元の皆様から頼ら

れる企業として、そして同友会活動から連携が深まるよう、今後も取り組んでいきます。

片野 貴一郎氏 (㈱モスク・クリエイション・御殿場支部)

三島例会

戦う組織づくりを目指して

10月23日(月) 三島商工会議所 参加17名



久保 修平氏

報告者の久保修平氏が常務取締役を務める、酒販業の㈱和楽。厳しさを増す外部環境の中、カウンター併設のワインショップなど様々な事業を立ち上げ、売上を伸ばしています。次なるステップとして、今いる社員の負担軽減や高齢化のために雇用をするのですが、なかなか定着しません。同社は経営指針書があり、行動方針を社員と共に創っています。また、労働時間の短縮や、会社が社員と共に育っていけるような取り組みも行っています。その上で社員に一つずつ経験を重ね育ってもらいたいと願うのですが、定着しないためステップアップもままならない、とのこと。これは、どの業種にも共通する悩みだと思います。そこでバズテーマを「社員が育つ環境をどのように演出していますか」と設定し、討論を行いました。例会に出席の皆から様々な意見が挙がっただけでなく、懇親会でも引き続き深く語り合うことができました。他社の問題を自社の問題としてとらえ議論する、それを改めて感じる事ができた例会となりました。

古川 一郎氏 (㈱一電工・三島支部)

沼津例会

差別と区別は違う

人間尊重の経営で3つの目的実現へ!

10月18日(水) プラサヴェルデ401 参加60名

今回は福祉委員会担当で、パネルディスカッション形式にて行いました。障がい者雇用している会社もしていない会社も交えての本音トーク



「会社の求める人物像とマッチすれば、障がい者も健常者も関係ない」といった意見もあれば「何度か採用したが長続きしなかった」といった意見まで様々飛び交いました。また「雇用だけでなく様々な障がい者との関わり方がある」などの話をふまえ「あなたに何が出来そうですか」というテーマでバズセッションに突入。ゲスト参加した東部の各特別支援学校の先生方8名も全てのグループへと入り、教育側の視点、時に双方からの要望や目指すべきところまで交わすに至りました。

グループ発表では「見学から」「実習から」などの声が出て、一定の成果を感じる例会となりました。必ずしも雇用ありきではありません。ただ“障がい者”でなく、そういう特性を持った“人”。人手不足も聞かれる昨今、改めて“人”に焦点をあてることが私達に必要なことだと感じた例会でした。

越膳 徹氏 (有イーリード・沼津支部)

富士例会

～10年ビジョンの実現にむけて～ 「社員零からの再起」

10月19日(木) ロゼシアター 参加34名



大竹 政彦氏

富士支部長を務める大竹政彦氏(有富士清掃センター)が報告。創業者の急逝により事業を承継しましたが、その当時の自社を取り巻く環境には様々な問題が山積していました。産廃最終処理費用の値上げ・得意先のコスト削減要求などで、産業廃棄物の運搬だけでは先行きの見通しが立たないと判断し、中間処理業者への申請・許認可を受けることで、業務の拡大を目指します。しかし従業員に社長の思惑が伝わっておらず、社内が混乱を起こす事態となりました。このとき大竹氏は、臆することなく自分の意思を実行に移すことで、難局を乗り越えました。現在は次のステップとして、産業廃棄物をリサイクルすることで地球環境保全に貢献する取り組みをしています。

自社を取り巻く諸問題や、社員との意思疎通の問題などは、どの企業でも起こり得ることです。我々経営者は何かの壁に直面した時、尻込みせず乗り越える勇気が必要です。自社事業の理念・方向性を常に持ち、勇気を持って決断し、前に進むことです。大竹氏の報告に、このことを強く再認識することができました。

片平 毅氏 (株ティーケーシステム・富士支部)

富士宮例会

振興条例を学んできたからこそ、 自社を変えられた

10月13日(金) 志ほ川 参加35名

報告者の夔威頼氏(有アサギリ)は「地域に無くてはならない会社」づくりに取り組んでいます。そこに注力するきっかけとなったのは、中小企業振興基本条例制定に向け、支部内で立ち上げた委員会に参加したことでした。自社が変わるために必要なことは?豊かな地域社会は誰が作るのか?振興条例ができて、私たちが変わり、目標を持ち、主体的に行動しなければ何も起こりません。

今回のバズテーマの一つ目は「あなたにとって地域とはどのようなものですか」です。各班から色々な意見がとびだしました。私の班では地域に

対するホスピタリティーが必要で、経営理念の中に地域との良い関係が保たれるような内容も必要ではないかとの意見がでました。

二つ目のテーマは「自社が地域に出来ることはなにか」です。一言でいうと頼られる会社づくりです。あなたの会社は地域に頼られていますか?近所の方に元気にあいさつしていますか?振興条例ができて私たちが変わり、目標を持ち、主体的に行動していくことが大切です。「みなさん!変わりましたか?」

坪井 一道氏 (クロストーク(株)・富士宮支部)



夔 威頼氏

静岡例会

社長の魅力で社員のエンジン全開

10月10日(火) ペガサート 参加55名

「男性だから出来ること。女性だから気づくこと。整備士だからわかること。整備士ではないから見えること。先代の背中を見て来たから守らなければならないこと。新しく入ってきたからこそ言えること」これは、今回の報告者である、望月渡氏が経営するモチヅキオートボディーの社員さんが最後に感想の中で述べた言葉です。人思いで社員を大切に、人を見放さない、そんな望月氏の魅力が社員との一体感を生んで、家業から法人化に事業拡大されていく熱い報告を聞き、感動しました。現場での女性社員の雇用、望月氏が修行時代に学んだ5Sと、それを実践し定着させた実行力。社員に任せることの必要性を感じ、情報の共有化をして、リーダーの役目を振り分け、社員に任せることをした結果、自主性を持って行動するチームに育てました。個人面談を実施し社員の気持ちを理解し、社長と社員の相互理解を深めています。素晴らしいと思います。モチヅキオートボディーは益々発展すると誰もが確信しました。



望月 渡氏

山田 誠司氏 (株メイコー・静岡支部)

志太例会

志太「つくる会」成果発表第1弾 経営理念の巻

10月26日(木) 島田市地域交流センター 歩歩路 参加20名

志太支部では今年度から「経営指針をつくる会」(以下、つくる会)を開催しています。10月例会では、本年度のつくる会参加者の中から、河原崎茂則氏(有かわでん)、小寺敬二氏(司法書士法人みらいふ)、大池盛一郎氏(有カーライフ静岡)の3名が、自社のプロフィールに始まり

「つくる会」での分析、及びそれを元に出来上がった経営理念を発表しました。最初はきれいな言葉が並んでいた理念ですが、リハーサルと自主学習を繰り返す中で、次第に自分の言葉になっていきました。当日は、3名が学んできた経過から導き出された理念を、それぞれが自信を持って発表していました。自分一人では思いつかなかったことも、人が集まることによって、見落としていた点や思いに気づきます。私も自分のことは棚に上げて、いろいろと言わせてもらいました。来年2月には指針の発表となります。もっともっと練った素晴らしい指針が出来上がることを期待しています。



池原 智彦氏 (㈲池原商会・志太支部)

榛原例会

やらざ〜榛南

10月19日(木) さざんか 参加43名

6月例会のパネルディスカッションでは県議会、

行政、金融機関の視点から地域の未来像・方向性を知ることができました。今例会では榛原支部でできることは何なのか?という視点から「良い経営環境を創る」ということに向けた見解を、地域での活動にも積極的に関わって実績を創っている遠藤在氏 (Sign) が報告しました。



遠藤 在氏

まずは榛原支部として条例制定を推進してきた実績をもとに、観光DMOなど行政も絡む事業について、同友会が中小企業の代表としてもっと関わっていくことで可能性が広がるという提案がありました。また、富士山静岡空港の利活用による同友会内での交流や企業マッチングの提案もありました。また、後継者のいない企業の多い現状から、事業継承やM&Aという手法でのサポートにより「より良い経営環境を創る」という提案もありました。グループ討論では、我々中小企業が地域の課題を解決していくための様々な提案や意見が飛び交い、とても有意義な例会となりました。

三浦 敏秀氏 (すけろくどりーむ㈱・榛原支部)

中遠・浜松合同例会

持続可能な社会は中小企業家が主役に

10月19日(木) 磐田市総合健康福祉会館 参加19名

報告者は中遠支部長の大橋徳久氏 (㈲大橋商事)。11月の全県フォーラムに向けてのリハーサルを兼ねて「エネルギーシフトと地域・企業連携の実践」を報告しました。大橋氏は地元地域に根づく中小企業家として、中同協のいう「エネルギーシフト」をどう実践するか。そして「エネルギーシフト」を通じ地域・社会・他の中小企業家との連携から得られることの大切さを語りました。



大橋 徳久氏

バズセッションでは「わが社にとってのエネルギーシフトの取り組み」をテーマに討論しました。各テーブルにてそれぞれの企業家が、自社独自で出来る省エネ面・リサイクル活動等を考え実施されていました。しかし単なるエネルギー転換ではなく、今回の報告の大きな課題である、他企業や地域の連携からなる「エネルギーシフト」。中小企業家として私達の生活の質・豊かさを根本から見直すことについて理解はしてはいましたが、もっとこれから考えていかなければいけないことを改めて感じさせられました。

藤井 陽介氏 (㈲藤井建築・中遠支部)

「エネルギーシフト」がキーワードの例会報告。

大橋氏は(㈲大橋商事)の他、(株)ゲネシス、(株)アーキエナジーと幅広く企業を展開しています。先代経営者である父親が、常に事を起こす前に大橋氏に考えさせ、決めさせてくれていたため、父親が急逝した時にも想像していたよりスムーズに、顧客や金融機関、関連企業に対応できたと話します。「自分で考え、行動することの大切さを実践から学ばせてもらった」という大橋氏の言葉にとっても共感しました。また大学生の頃から様々な会社で社長の抱持ち等をしたことで視野が広がり、今の仕事に生きているとのことでした。大橋氏の報告のテーマである「エネルギーシフト」は、誰にでもできるものであり、まず「やろう」という気持ちは大事、とのことでした。バズセッションでは、LED電球の活用、コピー用紙でなくPCやiPadの活用等、各自が意識を強くもつことがエコやエネルギーシフトにつながる、明日からさらに意識を高めよう!といった多くの意見がでました。支部の垣根を越えてのバズセッションは、多くの学びがありました。



真砂 隆氏 (フロムネイチャー・浜松支部)

静岡大学連携講座始まる

今年で10年目を迎えた「企業経済特論Ⅳ」の講座は、中小企業への関心を高めてもらい、経営者の魅力を感じてもらうこと、また中小企業の果たす役割の大きさを知ってもらうことが目的です。受講生は約80名、中小企業の経営者の生き様や経営哲学に触れ、中小企業ならではの魅力や企業の姿を知る機会、になっています。

第1講 10月4日(水) 「日本経済における中小企業の果たす役割と意義、この講座の目的と意義」 遠藤 一秀氏 遠藤科学株

総務省などの統計をもとに、中小企業が日本経済・地域経済で70～80%のウェイトを占めている現状や、地域社会の担い手として活躍している様子を伝えました。また学生に向けて「この講座を通じて中小企業に触れ、中小企業が持つ魅力を感じてほしい」と伝えました。



第2講 10月11日(水) 「中小企業の海外展開」 鈴木 雅夫氏 (株)ハチマル

ワイヤーハーネスと醤油醸造の2つの事業部門をもつ(株)ハチマルの、中国への事業展開を報告。異質な文化や習慣などの違いから、コミュニケーションの取り方、付き合い方を理解することで、現地で働く従業員との信頼関係を構築したと、グローバルな視点を持つ大事さ、そして体験することの大切さを力説しました。

第3講 10月18日(水) 「ビジネスモデルの変革で時代の波を乗り切る」 寺田 卓正氏 (株)ニューウェーブ

大学時代の転機から、独立するも全く稼ぐことができなかった創業期、外に目を向けることで次の転機を自ら創り出し、創る会への参加を通して自社の理念を見直したことなどを話しました。学生に、外に出ることで周りの環境を変えることができ、自分の意識も変えることができるとメッセージを伝えました。



第4講 10月25日(水) 「100年の会社を継ぐ覚悟と生き残るチームづくりへの挑戦」 齋藤 寧氏 (株)齋藤組

幼少期の体験から社長業に良いイメージを持てなかった齋藤氏ですが、「逃げている自分」に気づき自己変革。自分の行動や言葉を変えることで理想の自分に近づくことができると語りました。「地域を支える仕事の誇りやワクワクを伝えたい」と小学生への職業体験も行っており、最後にはコツコツ努力を積み重ねることで大きな力になると学生に伝えました。

連載 Seinenbu Tsushin 青年部通信

第7回

昨年度、「本音で語る同友会を目指して」を目的として、御殿場にて行われた第1回「朝まで討論会」から一年が経ちます。

第2回は場所を静岡に移し、中部地域の支部の青年経営者が設営して行います。

青年経営者のみならず、多くの方のご参加をお待ちしています！

静岡同友会青年部

第2回「朝まで討論会」in 静岡

日時：2018年2月3日(土) 17:00～4日(日) 12:00

場所：静岡ホテル時之栖

静岡市駿河区曲金6-1-54



永きにわたり地域に根ざす老舗畳店

坪井畳店

坪井 秀樹氏 (静岡支部)

事業内容：新畳、畳おもて替え、裏返し、琉球畳、置き畳、畳マット、いぐさ枕、いぐさトイレマット

創 立：1941年12月

社 員 数：2名

入会年月：2008年3月

所 在 地：静岡市清水区西久保295-1

T E L：054-366-4117

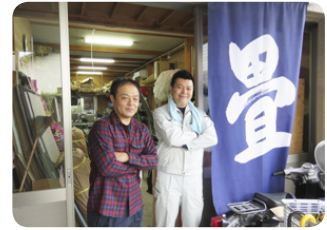
U R L：http://www.tsuboi-tatami.jp

創業76年。開戦の年に開業。

坪井畳店は、1941年清水にて坪井氏の祖父が開業しました。1941年は太平洋戦争が開戦した年、食糧難でもあり、開業当初は仕事も少なく、地域の皆で助け合いながら過ごしていたそうです。時は過ぎ、現在代表をされている坪井氏の父の代になり、昭和49年の七夕豪雨の災害では、被災によってたくさんの畳の需要がでました。特需を受けて、県外から高値で売りつけようとする同業者も参入してくる中、日頃からお世話になっている地域の方々に特価で畳を販売したといいます。現在は、坪井氏が父と2人で経営しています。

安定の張り替え需要と新規受注難

商品の強みは、100%熊本産の材料を使用し、安心・安全の国内産畳を製造・販売しているところです。また個人のお客様相手の商売を主としていることから、何年か毎に張り替えの需要があるのが強みでしょうか。しかし、近年の畳離れにより、新規の受注が中々難しいようです。個人宅を1軒1軒訪問営業するわけにもいかず、新規の受注はインターネットからか、定期的に行う新聞折込からというのが現状です。



坪井 秀樹氏 (右)

売上アップが当面の課題

今後の課題は、まずは売上アップ。そのために新商品の開発や、創る会での経営理念・経営計画の作成にも取り組んでいます。まずは、従業員の雇用ができるところまで売上を上げていきたいと語っていました。

取材・記事 藤本 浩氏 (プリントバリュー(株)・静岡支部)

顧客に寄り添い目指す“温故知新”の家創り

(有)藤井建築

取締役 藤井 陽介氏 (中遠支部)

事業内容：一般住宅建設、増改築・リフォーム、新築

創 業：1976年4月

社 員 数：2名

入会年月：2016年5月

所 在 地：磐田市池田1153

T E L：0538-34-4197

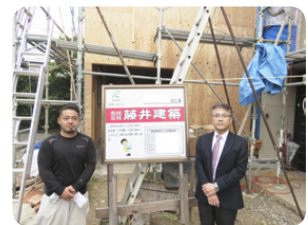
地域とともに40年

磐田市西部・池田地区のとある建設現場。リフォーム中の建物の中を覗くと、(有)藤井建築の藤井陽介氏が笑顔で迎えてくれました。

同社は約40年前、現社長である氏の父親が市内の建設会社から独立して創業。以来地元で建設業一筋に歩んできました。氏は設計会社などを経て15年ほど前に入社。現在は一人で現場を任されています。年間2棟ほどの新築物件と、リフォームを中心に顧客から直接仕事を請負っており、手間請け(他社の現場の手伝い)はありません。「地元の皆さんには本当にお世話になっています」と藤井氏。長年の実績が地域の信頼を生んでいるのです。

キーワードは“温故知新”

氏は現在同友会の「経営指針を創る会」に参加し、自社の経営指針を策定中。内容を尋ねると「“温故知新”がキーワード」。在来工法の良さと、省エネや耐震、環境負荷の少ない材料など、最新の技術を融合した新しい住宅を提供し、顧客の生命財産を守りたい。また顧客のこれまでの歩みを踏まえ、今後の新しい住環境を提案していきたい。そんな意味があるようです。指針の完成が待たれます。



藤井 陽介氏 (左)

自分に合っている同友会

同友会には同じ地域に住む現中遠支部長の大橋徳久氏(有)大橋商事)に誘われ入会。「同友会は自分に合っている。財務などの知識も得られたし、なにより仲間が増えてよかった」と語ってくれました。

近々経営承継を受ける予定とのこと。今後は定期的に顧客を訪問して関係性を一層強化し、数値管理による計画的な経営をしていきたいと意欲を見せる藤井氏。地域に根ざしてきた自社のあるべき姿を模索する、氏の真摯な姿勢が印象的でした。

取材・記事 鈴木 弘之氏 (税理士法人 あい会計・中遠支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1082名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
小川 美代子	(株)英俊舎 コインランドリー経営、建築・設計業 (コインランドリー店舗管理・運営、新築やリフォームのインテリアコーディネート・リフォームプランニング・設計)	榛原	鈴木 克哉
原 崎 寿 浩	(株)榛南総合家具センター 小売業 (家具・雑貨販売、スチール家具販売、内装業 (クロス、床材施工))	榛原	小塚 辰巳
武 山 誠 一	オールマイティ工房(株) コンピュータ修理、サポート販売 (コンピュータ修理、メンテナンス、デザイン各種、iPhone修理)	中遠	名倉 篤史

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第43回

この度、川村友美さん(こるどん(株)・静岡支部)よりバトンを受け取りました、(有)日本スエーデンの山本健二です。私どもの会社は、主に皮革産業において、靴や鞆などの革パーツ、自動車関連では、内装パーツなどを抜き取るための抜型(スエーデン鋼刃型)を製作する会社として創業し、現在は、革製品の企画、製造やCAD/CAMによる革の自動裁断など様々なサービスを皮革業界に提供しております。



山本 健二氏

同友会においては、第13期経営指針を創る会で、あらためて、自社の経営指針書を作成させていただきました。私たちの会社の理念のひとつに「創造」という言葉があります。この混沌とした時代に、常に新たなサービスやビジネスモデルを可能性として生み出していくことと、社員が自分の豊かな人生を創造していく意味があります。この創る会への参加は、もう一度社員との関わりについて、再確認できた大切な時期だったように思え、感謝にたえません。「今、君たちを自分の子どものように、思えないけど、そう思えるように、全力で努力をしたい」指針書の発表のとき、私が言ったこの言葉は、社員と本物の関係を築く最初の第一歩でした。

次回は、望月淳平さん(株)望月土木・静岡支部)です。よろしくお願いします。

山本 健二氏 (有)日本スエーデン・静岡支部)

10年後の地域づくり 小学生キャリア教育体験学習で地域貢献

静岡支部 地域交流委員会

9月19日(火) 清水不二見小/10月7日(土) 清水岡小
10月17日(火) 清水飯田小 予定 11月21日(火) 清水船越小

9月に1度、10月に2度、静岡市清水区内の小学校3校でキャリア体験学習を実施。小学生に仕事の楽しさや、地域の中小企業を知ってもらう機会となっています。

人手が欲しいのに募集をかけても若い人が入ってこない。特に地方の中小企業家にとっては深刻な悩みです。ただ募集をかけるだけでなく、自らが人材の種を蒔き育てていこう。そんな思いで今年より活動を開始しました。

「仕事のワクワク、面白さ、そして誇りを子ども達に伝えよう」をテーマに様々な業種の企業が一堂に会した体育館は子ども達にとってひとつのテーマパーク。なによりも「一緒に参加してくれる社員が一生懸命に仕事の魅力を伝えてくれている」この姿が同友会らしさです。

近年ますます初等教育からのキャリア学習に対する地域企業への期待は高まっています。本年は富士宮支部、志太支部他からも参加いただいて、まずは清水地区から開催となりましたが行政からの期待もあり来年以降は静岡市内三区全域への活動となるよう現在動いています。子どもたちのため、地域のため、そして自社のために、一緒に未来をつくっていきましょう。

齋藤 寧氏 (株)齋藤組 静岡支部地域交流委員会委員長)



QRコードにて読み取れるリンク先にて同友会キャリア教育の様子を見ることができます。



静岡同友会 Facebook ページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください！

同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。